

2024 年度事業報告について

2024年 4 月 1 日から

2025 年 3 月 31 日まで

公益財団法人

九 電 み ら い 財 団

2024年度は、環境事業として「環境保全活動」、「植林活動」、「環境教育活動」、「次世代向け環境活動支援」、奨学金事業として「奨学金の給与」を行ったほか、活動の情報発信を実施した。

I 環境事業

1 坊ガツル湿原での環境保全活動

- 坊ガツル湿原（大分県竹田市、約 53ha）の保全のため、当財団と環境省及び地元自治体・団体・企業等で構成する「坊ガツル野焼き実行委員会（事務局：当財団）」を中心に、九州電力(株)大分支店や地元の方々と連携し、野焼きや希少植物保護及び平治岳ミヤマキリシマの植生保護等の活動を実施
- 次世代の野焼きリーダーの育成を目的とした「野焼きリーダー養成研修」（講義・実技）を実施[20名参加]。また、本焼きでは各班リーダーによる実習（OJT）を実施
- 各活動とも概ね計画どおりに実施。参加者は682名 [前年度比39名減]
- 活動の成果を見える化し、参加者の満足度向上や情報発信につなげるため、湿原の生態系へ被害を及ぼす恐れのある植物調査及び平治岳のミヤマキリシマ植生範囲調査を実施

(1) 坊ガツル湿原 野焼き活動

(名)

実施日	活動	内容	参加者
8/17	輪地切り	野焼きの際の延焼を防ぐ防火帯をつくる作業	150
9/21	輪地焼き	防火帯部分に新芽が出ないように、刈った草を集め焼き払う作業	116
3/22	本焼き	防火帯の内側に火入れし、湿原一帯を焼く作業	123
計			389

(2) 坊ガツル湿原 希少植物保護活動

(名)

実施日	内容	参加者
7/20	湿原の希少植物保護のため、外来植物を除去する作業	142
計		142

(3) 平治岳ミヤマキリシマ植生保護活動及び登山道整備

(名)

実施日	内容	参加者
4/13	平治岳（大分県竹田市、約 20ha）に自生する希少植物ミヤマキリシマの植生を保護するため、生育の支障となる樹木（ノリウツギ等）を伐採するとともに、老朽化している登山道を整備	92
11/9		59
計		151

(4) その他の活動

- ラムサール条約が求める「保全」と「活用」の観点から、平治岳のミヤマキリシマの観光資源化を目指し、植生保護活動の範囲をやまなみハイウェイから眺望できる北側斜面の拡大に向け、支障木（ノリウツギ等）を伐採（1ha）

(5) 活動の評価

- 野焼き活動及び平治岳ミヤマキリシマ植生保護・登山道整備においても、天候不良により延期になったものの、計画通り実施
- 坊ガツル湿原での野焼きによる環境保全活動が「未来に残したい草原の里100選」に選定。当財団の活動への評価向上、認知拡大にもつながったと評価
- 野焼き活動の課題である後継者不足の解決に向け、「野焼きリーダー養成研修」及び活動時の実習（OJT）を実施。引き続き、後継者育成に向けた実践的な経験の機会を提供することが必要
- 前年度高評価であった、野焼き（本焼き）参加者の裾野拡大を目的とした野焼き勉強会は、2度の延期（天候不良）により、野焼き・勉強会ともに参加者減となったため、実施を見送り。来年度は開催を前提に準備を実施

2 九電みらいの森プロジェクト

- 「いさはや九電みらいの森」（長崎県諫早市）に続き、九州南部の拠点「きりしま九電みらいの森」（鹿児島県霧島市）において、環境教育や地域の憩いの場に向けたフィールド整備を実施
- プロジェクト第3弾となる九州北部エリアの候補地を選定

(1) 「いさはや九電みらいの森」での活動

- 長崎県の森づくり制度に基づき、長崎県、諫早市、当財団の3者で締結した協定（2022年1月）における森林整備活動計画に則したボランティア活動及び学校向け環境教育等により、育林活動（除草委託）やフィールド整備を実施

[ボランティア]

(名)

実施日	対 象	参加者
6/1	地域の方々や地元自治体・団体、長崎大学の学生及び九電グループの従業員とその家族	112
	計	112

[フィールド整備]

時期	内 容	備考
7～12月	環境教育にて講話を実施する広場等の整備や植樹した樹木の樹種名板の設置及び環境教育以外のフィールドの除草	委託

(2) 「きりしま九電みらいの森」での活動

- 森づくり計画に基づきフィールド整備を実施。園路やウッドデッキ、自然工法の排水溝(バイオスウェール)の設置に加え、自治体や地元の皆さま、九電グループ関係者のボランティアによる育林作業(しがらみづくり)等、地域と一体となった森づくりを推進

[ボランティア]

(名)

実施日	対 象	参加者
8/3	地域の方々や地元自治体・団体、九電グループ従業員及び家族	91
	計	91

[フィールド整備]

時期	内 容	備考
6～3月	園路(樹皮敷き)やウッドデッキ、階段、自然工法の排水溝等を設置	委託

(3) その他のエリアでの活動

- 九州電力(株)各支店や自治体との連携のもと、九州北部エリアにおける候補地検討を行い、候補地を選定

(4) 活動の評価

- 「いさはや九電みらいの森」では、地域との協働によるボランティア活動や環境教育委託を通じた周辺施設との連携により活動が着実に定着・拡大
- 「きりしま九電みらいの森」では、ボランティアや委託によるフィールド整備を計画通り実施。引き続き、広葉樹の植樹をはじめとする豊かな森づくりに向けた取組みを地域と一体となって推進することが必要
- 北部エリアでの森づくりについては、自治体や地元関係者等とも密に連携し、環境教育や地域の憩いの場に向けたコンセプトやフィールドデザイン等を検討することが必要

3 環境教育活動

- 環境保全意識の向上のため、「くじゅう九電の森」「いさはや九電みらいの森」「きりしま九電みらいの森」において、次世代や保護者を対象に「講話」と「体験」から成る環境教育を実施

(1) 学校向け環境教育 [計 812 名]

① くじゅう九電の森

- 計5回実施、276名（小学校7校）が参加 [計画比：▲1回]

(名)

実施回	実施日	対 象	地域	子ども	大人	計
1	5/13	大分市立神崎小学校	大分	26	3	29
		日田市立いつま小学校	大分	14	3	17
2	5/17	福岡市立下山門小学校	福岡	66	4	70
3	9/17	別府市立別府中央小学校	大分	27	6	33
		別府市立上人小学校	大分	44	3	47
4	10/17	福岡市立壱岐東小学校	福岡	29	4	33
5	10/18	別府市立大平山小学校	大分	43	4	47
計				249	27	276

※ 9/24 実施予定だった杵築市立東小学校は雨天中止（子ども 47 名、大人 3 名）

② いさはや九電みらいの森

- 計10回実施、434名（小学校9校）が参加 [計画比：±0回]

(名)

実施回	実施日	対 象	地域	子ども	大人	計
1～2	10/28, 29	諫早市立真津山小学校	長崎	117	7	124
3	11/ 5	諫早市立森山西小学校	長崎	25	2	27
4	11/ 6	諫早市立長田小学校	長崎	42	3	45
5	11/13	佐賀市立西与賀小学校	佐賀	52	4	56
6～7	11/14, 15	鹿島市立明倫小学校	佐賀	67	6	73
8	11/19	佐賀市立富士小学校	佐賀	12	2	14
		長崎市立手熊小学校	長崎	9	2	11
9	11/20	福岡市立能古小学校	福岡	18	3	21
10	11/21	福岡市立愛宕浜小学校	福岡	60	3	63
計				402	32	434

③ きりしま九電みらいの森

- 計4回実施、102名（小学校3校、1団体）が参加 [計画比：±0回] (名)

実施回	実施日	対 象	地域	子ども	大人	計
1	5/29	霧島市立三体小学校	鹿児島	5	2	7
2	9/6	霧島市立高千穂小学校	鹿児島	16	3	19
3	9/11	霧島市立横川小学校	鹿児島	14	2	16
4	9/21	鹿児島県主催高校生向け教育	—	42	18	60
計				77	25	102

(2) 親子向け環境教育 [計 303 名]

① くじゅう九電の森

- 九州全域の小学生を対象に1回実施、75名参加。また、西日本新聞こどもタイムズの取材に7名参加 [計画比：+1回] (名)

実施回	実施日	対 象	子ども	大人	計
1	5/11	九州全域の親子	38	37	75
2	8/20	西日本新聞こどもタイムズ取材 (西日本新聞)	5	2	7
計			43	39	82

② いさはや九電みらいの森

- 育林ボランティアに参加した子どもを対象に1回実施、17名参加。また、九州電力(株)長崎支店主催イベントにブース出展し、78名参加 [計画比：+1回] (名)

実施回	実施日	内 容 (連携先)	子ども	大人	計
1	6/1	育林ボランティア参加の子ども	17	0	17
2	11/30	森の探検 Qウォークラリー (九州電力(株)長崎支店)	42	36	78
計			59	36	95

④ きりしま九電みらいの森

- 助成先団体及び九州電力(株)鹿児島支店とのイベントを開催し、2回実施、126名参加 [計画比：+2回] (名)

実施回	実施日	内 容 (連携先)	子ども	大人	計
1	10/5	2024年度助成先団体 「こどものけんちくがっこう」	44	8	52
2	10/26	きりしま FanFun フォレスト (九州電力(株)鹿児島支店)	44	30	74
計			88	38	126

(3) デジタル技術を活用した環境教育 [計 54 回、1,617 名] [計画比：+ 4 回]

○ 九州全域で計 51 回実施、1,494 名（小学校 23 校）が参加

(名)

実施回	実施日	対 象	地域	子ども	大人	計
1	6 / 11	対馬市立佐須奈小学校	福岡	26	1	27
2	6 / 11	対馬市立西小学校	福岡	26	2	28
3～9	7 / 2, 3 10 / 7, 10	北九州市立吉田小学校	北九州	210	7	217
10～11	9 / 3	別府市立明星小学校	大分	51	4	55
12～13	10 / 8	北九州市立黒畑小学校	北九州	59	2	61
14～16	10 / 22	鹿児島市立草牟田小学校	鹿児島	75	3	78
17～19	11 / 11, 12	鳥栖市立鳥栖小学校	佐賀	103	3	106
20	11 / 15	大牟田市立明治小学校	福岡	36	2	38
21	12 / 17	玉名市上玉水小学校	熊本	18	1	19
22	1 / 9	福津市上西郷小学校	福岡	21	1	22
23～25	1 / 23, 24	大牟田市立天領小学校	福岡	67	3	70
26	1 / 27	佐賀市立富士小学校	佐賀	9	1	10
27	2 / 4	延岡市立北浦小学校	宮崎	21	1	22
28～31	2 / 5, 6	新富町立富田小学校	宮崎	107	4	111
32	2 / 10	南関町立南関第四小学校	熊本	27	2	29
33～35	2 / 12, 13	久留米市立東国分小学校	福岡	95	3	98
36～37	2 / 14	唐津市大志小学校	佐賀	71	2	73
38～39	2 / 21	玉名市立大野小学校	熊本	42	2	44
40～42	2 / 26, 27	福岡市立筑紫丘小学校	福岡	103	3	106
43～44	3 / 6	佐賀市立開成小学校	佐賀	74	2	76
45～46	3 / 7	佐賀市立基里小学校	佐賀	71	2	73
47～48	3 / 11	小城市立牛津小学校	佐賀	50	2	52
49～51	3 / 18, 19	久留米市立宮ノ陣小学校	福岡	76	3	79
		計		1,438	56	1,494

- 九電グループや、国立諫早青少年自然の家のイベントにブース出展し、VRを活用した環境教育を3回実施、123名が参加

(名)

実施回	実施日	内 容 (連携先)	子ども	大人	計
1	8/20	九州電力(株)親子参観デー (九州電力(株))	20	15	35
2	11/10	エネ I K U 2024 in 玄海唐津 (九電産業(株))	41	0	41
3	2/24	冬の体験フェスティバル (国立諫早青少年自然の家)	47	0	47
		計	108	15	123

(4) 活動の評価

- デジタル環境教育の委託エリアを九州全域に拡大したことに加え、企業や自治体、助成先を含む他団体主催のイベントへの出展により、環境教育の機会の拡大を図ることができた。また、環境保全意識啓発率は98.8%を達成
- 各所と連携したイベントへの出展等の教育機会拡大に取り組むとともに、教育内容の更なる充実化に向けて、新たなプログラムの検討が必要

4 次世代向け環境活動支援

(1) 2024 年度助成事業

① 助成結果

- 「九州の未来を担う子どもたちの自然を大切にする心を育む活動」を募集テーマに設定し、小規模な活動を行う団体からの応募数増加を目的として2023年度に新設した上限20万円の助成枠を継続
- 九州各地から32件の応募があり、18件(約730万円)の団体に助成
- 活動分野と助成件数は以下のとおり

(件)

活動分野	助成件数
山・川・海などの保全活動	4
自然の大切さを学ぶ活動	10
資源の大切さを学ぶエコ活動	4

- 地区別の選考件数及び応募件数は以下のとおり

(件)

エリア	北九州	福岡	佐賀	長崎	大分	熊本	宮崎	鹿児島	計
選考件数	3	3	4	1	1	1	2	3	18
内 訳	上限100万円	2	1	1	0	0	0	3	7
	上限20万円	1	2	3	1	1	2	0	11
応募件数	5	5	6	1	3	3	4	5	32

② 活動紹介

- 団体の活動を当財団のSNSで紹介（団体の活動時には財団の助成活動である旨を明示）

(2) 2025 年度助成事業

① 募 集

- 「九州の未来を担う子どもたちの自然を大切にする心を育む活動」をテーマに、長期的・安定的に活動したいと考える団体向けに、複数年助成コース（上限 20 万円×最長 3 年間）を新設
- 募集にあたっては、当財団のホームページやSNSでの紹介をはじめ、九州各県の自治体の環境関係部署及び中間支援NPO、社会福祉協議会、森林組合連合会、大学のボランティアサークル等へ幅広く周知

② 選考結果

- 九州各地から 73 件の応募があり、社外アドバイザーの意見を踏まえ審査を行い、20 件（約 780 万円）の団体を選考
- 活動分野と選考件数は以下のとおり

(件)

活動分野	選考件数
山・川・海などの保全活動	6
自然の大切さを学ぶ活動	11
資源の大切さを学ぶエコ活動	3

- 地区別の選考件数及び応募件数は以下のとおり

(件)

エリア	北九州	福岡	佐賀	長崎	大分	熊本	宮崎	鹿児島	計	
選考件数	2	4	1	2	3	2	2	4	20	
内 訳	上限 100 万円	1	2	0	1	0	0	1	2	7
	上限 20 万円	1	2	1	1	2	1	0	2	10
	複数年	0	0	0	0	1	1	1	0	3
応募件数	9	16	5	5	8	12	7	11	73	

(3) 活動の評価

- 2024 年度活動参加者の環境意識醸成割合は 9 割以上であり、助成した活動を通して子どもたちの自然を大切にする心を育むことができた
- 複数年助成枠を新設して応募の間口を拡げたこと等に加え、PR 先の拡大や SNS の動画広告配信によって、応募数は大幅に増加 [前年度比+41 件]
- 団体の更なる活動機会拡大と財団活動の認知向上や、更に多くの団体の一助となることを目的に、「九電みらいの森」での協働・連携等、助成先団体や応募団体との効果的な関係構築に向けた施策を検討

Ⅱ 奨学金事業

1 奨学金の給与

(1) 給与対象

① 学 生

・九州大学、九州電力及び九州電力送配電社員の子弟

② 私費留学生

・福岡大学、西南学院大学、九州工業大学

(2) 給与額

月額2万円/名、年額22万円（8月は支給なし）

(3) 給与人員

2024年度は、8名に給与

(4) 当年度給与総額

1,760千円（注：うち九電子弟分 660千円）

(5) 活動の評価

- 各大学の学生課等を通じて募集・選考した一般学生、留学生に年間を通じて奨学金支給を行い、2024年度末に7名が卒業
- 2022年度以降の新規募集を停止しており、残り1名の奨学生が卒業するまで（2026年度まで）着実に給与する

Ⅲ 活動の情報発信

- ホームページやSNS（Facebook、Instagram、YouTube）等の多様な媒体の活用や機会を捉えた情報発信を実施
- ・ 財団活動の参加者にSNSでの情報発信に関心をもってもらうため、活動当日にタイムリーな投稿を実施
- ・ 次世代層とその家族を対象に、財団活動への興味関心を持ってもらうため、「夏休み自由研究」の一助となるような動画を、財団公式YouTubeに掲載
- ・ 環境保全意識の啓発及び財団の認知向上を目的に、Instagramフォトコンテストを実施

	テーマ	応募作品数
第12回	みらいへつなげたい九州の自然風景 ～私の“推し”の1枚～	2,747

※募集期間：2025年2月20日～5月6日

〔報道実績〕

()内は前年度の実績

内 容	T V	新聞	合計
坊ガツル湿原一帯での環境保全活動	6	7	13 (21)
九電みらいの森プロジェクト	1	3	4 (6)
環境教育活動	5	6	11 (11)
次世代向け環境活動支援	7	17	24 (18)
その他	0	1	1 (1)
計	19	34	53 (57)

〔SNSフォロワー数・投稿数〕

()内は前年度の実績

S N S	フォロワー数	投稿数
Facebook (2016.8～)	1,435 (1,382)	102 (110)
Instagram (2017.11～)	6,143 (5,476)	91 (140)
YouTube (2024.1～)	52 (42)	2 (3)
計	7,630 (6,900)	195 (253)

(1) 活動の評価

- 報道実績は前年度と同様であったが、活動後の速やかなSNS更新、新たに制作した自由研究動画やフォトコンテストの実施等により、SNSフォロワー数は730名増加し、当財団の認知拡大に寄与
- 今後も継続的な情報発信を続けるとともに、2026年5月に迎える設立10周年を念頭にファンへの感謝と更なる認知拡大を図るため、公式キャラクターや活動動画の製作等、情報発信を充実させることが必要

IV その他

1 賛助会

- 九州電力グループ会社32社（経営統合により▲1社）、個人9名
賛助会費：約710万円

2 寄附金

- 法人1社、個人7名
寄附額：約30万円
- 九州電力㈱の「みらいの森を育てようプラン」加入者
寄附額：約130万円

以 上

2024 年度事業報告の附属明細書

(2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで)

2024 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 64 条において準用する第 34 条第 3 項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以 上